

『フレームリーディング』へようこそ！

長文読解は「記憶力テスト」

大学入試や各種検定試験における英文読解問題のほとんどは「長文読解」です。つまり、長い英文を読んで、その内容に関する設問（多くの場合は選択式）を解くというものです。英文量は総じて多く、また時間制限も厳しく、「英文をじっくり読んで、一つ一つの選択肢を英文と見比べながら検討する」というアプローチは現実的ではありません。合格レベルに達するには、少なくともパラグラフ単位で「英文を読む」→「理解した内容を記憶に残す」→「設問を解く」というシンプルな作業動線を描く必要があります。それを可能にするアプローチの1つが『フレームリーディング』です。

『フレームリーディング』とは

本書で学習する『フレームリーディング』とは、**読んだ英文の内容を「理解の枠組み（フレーム）」に整理して記憶に残すトレーニング方法**のことです。

実は、皆さんが文章の内容を理解して記憶に残すときには、文章の構造やジャンル、典型的な展開パターンなど、皆さんの頭の中にあるさまざまな枠組みを活用しています（このような枠組みを認知心理学では「スキーマ／既有知識」と呼びます）。つまり、「理解して記憶する」ということは、文章の内容を自分の頭の中にある何らかの枠組みに入れ込んで、自分がすでに知っていることや他の情報と関係付けるといったことなのです（これは「意味付け」と呼ばれます）。

『フレームリーディング』では、この枠組みの中から主に論理構造に関わる主要なものを7つに分類して **記憶フレーム** と呼び、これを基準として〈英文の理解→記憶〉がスムーズに行えるようになるためのトレーニングを行います。

図式（チャート）化の効果

『フレームリーディング』では、原則として英文の内容を図式（チャート）化します。たとえば、「**因果フレーム**」では次のような図式が用いられます。

A（原因）



B（結果）

たとえばあなたが、「彼女は英語が話せたのでその仕事を得ることができた」という主旨の文章を読んで、その主旨が記憶に残ったならば、それは頭の中でこの図式の **A** に「英語が話せた」、**B** に「その仕事を得た」という情報が適切に置かれ、あなたの中で意味付けがなされたからです（「今日の昼休みに友だちが泣き出した事件」や「世界史の時間に教わったフランス革命の原因」を家に帰ってから家族に話すことができるのも、同じ仕組みです）。

『フレームリーディング』では、この図式（視覚情報）を最大限に活用することで、英文（言語情報）の内容が頭の中でスムーズに位置付けられ、記憶に残るようになるこ

とを目指します。もちろん図式は、言ってみれば補助輪やビート板のようなものですから、将来的には皆さんの「頭の中」で自動的に描かれるようになるのが目標です。

7つの記憶フレーム

『フレームリーディング』で扱う記憶フレームは、次の7種類です。

- ① 対比フレーム
- ② 因果フレーム
- ③ 例示フレーム
- ④ 追加・列挙フレーム
- ⑤ 根拠・理由フレーム
- ⑥ 逆接フレーム
- ⑦ 換言・説明フレーム

それぞれの**記憶フレーム**は独立したものではありません。むしろ、複数の**記憶フレーム**が組み合わさることで1つの情報が効果的に伝えられるのが普通です。ただし、本書(『入門編』)では、短めの英文(40～80 words程度)を用いて、1つの英文に対して1つの**記憶フレーム**を対応させる形での演習を重ね、**フレームリーディング**の基礎作りを行います。(別書の『応用編』では、より長い英文を用い、1つの英文で複数の**記憶フレーム**を扱います。)

1文ごとの理解はすべての基礎

『フレームリーディング』は、言語の種類を問わず機能する思考能力(推論力)を活用するアプローチですが、それは**単語と文法の知識による1文の理解がなければ何一つ効果を発揮しません**。そのような「絵に描いた餅」の状態にならないよう、本書では単語、表現、文構造が詳しく解説されています。

内容が記憶に残らない理由は「理解不足」であり、その理解不足の根本原因が単語や文法にあるのならば、その問題点から目を背けてはなりません。解説中のすべての情報をフル活用すれば、**どこに弱点があろうとも皆さんの英語力を本質的にアップさせることができます**。

リスニング対策も同時に行える

『フレームリーディング』が目指す〈インプット→記憶→設問〉という作業動線は、まさにリスニングの作業動線と同じです。したがって、同じアプローチはリスニング対策としても極めて効果的です。本書ではすべての英文の音声ファイルを用意しました。また、演習の仕上げとして、英文を見ずに音声のみで復習する「リスニング演習」も設けてあります。詳しくは、続く「本書の構成と学習の進め方」をご覧ください。

さあ、『フレームリーディング』を始めましょう！

本書の構成と学習の進め方

本書は **記憶フレーム** ごとに次のように構成されています。

講義

- ☑ **記憶フレーム** の重要なポイントが3つの例文を用いて解説されています。フレームと照らし合わせながら例文を読み、その後、解説をしっかりと読んでください。**英文の内容を記憶に残すためのポイントを意識することが大切です。**
- ☑ **記憶フレーム** のポイントを理解したら、もう一度英文を読み通しましょう。**英文を読みながら頭の中でフレームを描いてみましょう。**理解が不十分なときは、日本語訳を参考にしてください。また音声を活用するとさらに効果的です（F101のように記されています）。

演習

例文演習

- ☑ 講義で扱った例文を用いた演習です。**講義**で学んだポイントを思い出しながらかみましょう。設問に答えることで、内容の理解が確認できます。
- ☑ ページをめくると、すぐに解説を読むことができます。フレームリーディングの流れを確認し、また**解答の根拠をしっかりと理解してください。**特に、英文と選択肢の間の「言い換え（パラフレーズ）」に注意しましょう。
- ☑ 解説ページには、【**構造分析**】で英文の構造を示してあります。また、フレームリーディングに係る表現も示してあります。**英文読解の基本である「1文ごとの正確な理解」に役立ててください。**

類題演習Ⅰ・Ⅱ

- ☑ 例文と同じレベルの英文を用いた演習です。**記憶フレーム**を参照しながら英文を読んで設問に答えましょう。
- ☑ ページをめくると、すぐに解説を読むことができます。例文演習と同じように、**フレームリーディングの流れを確認し、また「言い換え（パラフレーズ）」に注意して、解答の根拠をしっかりと理解することが大切です。**
- ☑ **単語や文構造の理解不足を放置してはいけません。**◆**語句と表現**◆、【**構造分析**】そして日本語訳を十分に活用しましょう。
- ☑ 最後にもう一度英文を読み通しましょう。**英文を読みながら頭の中で **記憶フレーム**を描いてみましょう。**音声を活用するとさらに効果的です。

類題演習Ⅲ

- ☑ やや難度が高い、長めの英文を用いた演習です。設問が2つ与えられています。類題演習Ⅰ・Ⅱと同様に、**記憶フレーム**を参照して取り組んでください。
- ☑ 解説ページの構成も類題演習Ⅰ・Ⅱと同じです。**単なる「答え合わせ」にならないように、解説をしっかりと読み込んで、フレームリーディングのポイントを理解してくだ**

さい。

- ☑ 最後にもう一度英文を読み通しましょう。英文を読みながら頭の中で **記憶フレーム** を描いてみましょう。音声を活用するとさらに効果的です。

リスニング演習（巻末）

- ☑ 演習で扱ったすべての英文を用いて行います。**フレームリーディングの仕上げとして重要な作業なので、例文演習、類題演習Ⅰ～Ⅲを終えた後で必ず行ってください。**
- ☑ 英文や **記憶フレーム** のない状態、つまり「アシストなし」の状態英文にダイレクトにアプローチする機会です。すでに読んだ英文と設問なので、正解することは難しくないでしょう。**大切なのは、音声を聞きながら頭の中に記憶フレームを再現することです。**

【構造分析】について

- ・解説ページの【構造分析】では、文法的な要素や構造などを、主に次のような記号と補助線、注記で示しています。日本語訳と合わせて、1文ごとの理解に役立ててください。
- ・主要な部分のみ示しています。また、主節だけでなく従属節（名詞節 / 形容詞節 / 副詞節）内にも必要に応じて示しています。

文の要素

S：主語 V：述語動詞 O：目的語 C：補語

- * これらの要素が2つ以上連なる場合は $S_1, S_2, \dots$ などと表す。
- * 準動詞（不定詞・動名詞・分詞）内では (s), (v), (o), (c) と記す。
- * 文と文、文と分詞構文など「大きな句切れ」はスラッシュ (/) で記す。
- * seem to do / tend to do などの表現は全体を V とする。
- * allow O to do / help O do などの to do や do は C として扱う。

O → : 長い要素の開始点（全体に線を引かずに開始点のみ示す。）

(S)/(O) : 形式主語 / 形式目的語 * 真主語 / 真目的語は S / O で示す。

補助線

[] = 名詞句・名詞節

() = 形容詞句・形容詞節（修飾対象は  で示す。）

{ } = 副詞句・副詞節

 = フレームリーディングの重要表現（機能は〈例示〉などと記す。）

その他の主な注記

分詞構文 : 〈分詞 + α〉の形で、主に文頭で〈理由〉などを表したり、文末で〈結果〉や追加的な情報などを表したりする。

動名詞 S : 「～すること」という意味の〈doing + α〉が主語の位置に置かれている。

副詞用法 : to 不定詞の副詞用法のことで、主に「～するために」〈目的〉という意味を表す。

同格 : 主に〈名詞句 + that 節〉の形で、that 節が名詞句の内容を説明している。

目次

■記憶フレーム① ● 対比フレーム 〈A : B〉

講義 …… 8

例文演習 ……14 類題演習 I ……19 類題演習 II ……24 類題演習 III ……30

■記憶フレーム② ● 因果フレーム 〈A → B〉

講義 …… 38

例文演習 ……44 類題演習 I ……49 類題演習 II ……54 類題演習 III ……60

■記憶フレーム③ ● 例示フレーム 〈A ⊃ a〉

講義 …… 68

例文演習 ……72 類題演習 I ……78 類題演習 II ……83 類題演習 III ……88

■記憶フレーム④ ● 追加・列挙フレーム 〈A + B〉

講義 …… 96

例文演習 ……100 類題演習 I ……105
類題演習 II ……110 類題演習 III ……116

■記憶フレーム⑤ ● 根拠・理由フレーム 〈A/B〉

講義 …… 126

例文演習 ……130 類題演習 I ……136
類題演習 II ……141 類題演習 III ……146

■記憶フレーム⑥ ● 逆接フレーム 〈A ⇔ B〉

講義 …… 156

例文演習 ……160 類題演習 I ……165
類題演習 II ……170 類題演習 III ……176

■記憶フレーム⑦ ● 換言・説明フレーム 〈X = X'〉

講義 …… 186

例文演習 ……190 類題演習 I ……195
類題演習 II ……200 類題演習 III ……206

リスニング演習 ……215

講義

記憶フレーム① ● 対比フレーム 〈A : B〉

記憶フレーム



・具体例 a  その一方…／それに比べて… ・具体例 b

- 〈対比フレーム〉の英文では、**2つの項目（A : B）が論じられます**。たとえば、「プラス（A）：マイナス（B）」のように正反対のものの場合もあれば、「AよりBのほうが重要だ」というような相対的なものの場合もあります。さらに、「AではなくBだ」というように、肯定と否定を組み合わせて対比を表すこともあります。
- 〈対比フレーム〉を用いた英文では、対比される項目（A : B）に対応した具体例（a : b）が挙げられるなど、大小いくつかの枠組みで対比が説明されることが多くあります。したがって、**対比されている項目（A : B）の主要なポイントを具体例（a : b）などを生かして正確にとらえることが重要**。そうすれば、それぞれの項目の中心的な情報が **記憶フレーム** のAとBにしっかりと当てはまり、**記憶に残るようになるのです**。

例1 F101

トピック 社会の構造的特徴

①Different societies have different sets of values. ②Group-oriented societies emphasize teamwork, collaboration, and common goals, encouraging a sense of community and shared responsibility. ③In contrast, individual-oriented societies value personal achievement and independence, promoting personal growth and freedom of choice.

記憶フレーム

Group-oriented Societies

:

Individual-oriented Societies

☹️ それに対して…

- teamwork / collaboration / common goals
- a sense of community / shared responsibility

- personal achievement / independence
- personal growth / freedom of choice

- この英文では、①で「社会によって価値観は異なる」というメインアイディアを提示し、その後、②③で2つの対比的な社会の構造を挙げて、その具体的な価値観の違いを説明しています。
- ②ではgroup-oriented（集団中心）の社会について、③ではindividual-oriented（個人中心）の社会について、両者を対比する形で説明しています。③の冒頭のIn contrast（それに対して）が、シグナルとして〈対比フレーム〉を明示しています。

日本語訳

①異なる社会には異なる価値観がある（＝価値観は社会によって異なる）。②集団中心の社会は、チームワーク、協働、そして共通の目標を強調し、共同体意識と共同責任を育む。③それに対して、個人中心の社会は個人の達成と自立に価値を置き、個人の成長と選択の自由を促進する。

- ☞ 〈対比フレーム〉の英文を読むときは、**対比される2つのことがら（A : B）を頭の中で左右に振り分けるようにすると**、理解が整理され内容が記憶に残りやすくなります。
- 例1 ならば、「集団中心→team work / collaboration / a sense of community ...」を頭の中で左側に置き、「個人中心→personal achievement / independence / personal growth ...」を右側に置く、といった具合です。

対比のシグナル（副詞句）

on the other hand「その一方で」 / in contrast [comparison]「それとは対照的に」
「これに対して」 / meanwhile「その一方では」 / however「しかしながら」 / at the same time「それと同時に」

演習

例文演習

講義で扱った例文をもう一度読み、設問に答えなさい。

1 F101

① Different societies have different sets of values. ② Group-oriented societies emphasize teamwork, collaboration, and common goals, encouraging a sense of community and shared responsibility. ③ In contrast, individual-oriented societies value personal achievement and independence, promoting personal growth and freedom of choice.

Q. What is the most notable difference between group-oriented societies and individual-oriented societies?

(集団中心の社会と個人中心の社会の最も顕著な違いは何か。)

- A. Group-oriented societies prefer freedom of choice, while individual-oriented ones avoid teamwork.
- B. Group-oriented societies value independence, while individual-oriented ones value harmony.
- C. Group-oriented societies focus on working together, while individual-oriented ones support personal goals.
- D. Group-oriented societies help people grow personally, while individual-oriented ones promote community.

◆ 語句と表現 ◆

① values 「価値観」 ② A-oriented 「A 中心の」 emphasize 「～を強調する」
collaboration 「協働」 common 「共通の」 encourage 「～を促す」 shared 「共有された」
③ personal 「個人の」 achievement 「達成」 promote 「～を促す」 freedom of choice
「選択の自由」

2 F102

① Stories can be enjoyed in different ways, each offering a unique experience.
② While books offer extensive stories and knowledge, letting readers explore ideas in their own time, movies bring stories to life with visuals and sound, creating fast-paced entertainment. ③ Both are great ways to enjoy a good story.

例文演習 解答と解説

1 集団中心の社会と個人中心の社会の最も顕著な違いは何か。

- A. 集団中心の社会は選択の自由を好み、個人中心の社会は協力を避ける。
 B. 集団中心の社会は自立に価値を置き、個人中心の社会は調和に価値を置く。
C. 集団中心の社会は協力を重視し、個人中心の社会は個人の目標を支える。〈正解〉
 D. 集団中心の社会は個人の成長を助け、個人中心の社会は共同体を促進する。

● 解答のポイント ●

- ②から集団中心社会の特徴を、③から個人中心社会の特徴を〈対比〉に注意して読み取ります。③冒頭の In contrast が〈対比〉の展開を明示しています。
- 〈対比〉に焦点を当てて、本文と **C. Group-oriented societies focus on working together, while individual-oriented ones support personal goals.** とのパラフレーズ（言い換え）を確認しましょう。本文と同じ表現を見つけるのではなく、同じ内容に注目することが大切です。

本文	選択肢 C
② teamwork / collaboration / common goals	≡ working together
③ personal achievement and independence	≡ personal goals

【構造分析】 ⇨ 日本語訳は p.9

- ① Different societies have different sets of values.
 S V O
- ② Group-oriented societies emphasize
 S V
teamwork, collaboration, and common goals,
 O
 / encouraging a sense of community and shared responsibility.
 【分詞構文】
- ③ In contrast, individual-oriented societies value
 <対比> S V
personal achievement and independence,
 O
 / promoting personal growth and freedom of choice.
 【分詞構文】

2 本と映画の物語の伝え方の違いを正しく述べたものはどれか。

- A. 映画のほうが本よりも深い物語を伝え、本は単純な情報を与えるだけだ。
B. 本は読者が時間をかけて読め、映画は速くてワクワクする話を伝える。〈正解〉
 C. 本は速くてワクワクさせ、映画はゆっくりで考えにあふれている。
 D. 本も映画も知識と楽しさを与えるので同じだ。